

議題 ①

タイトル 藤島地域文厚エリアについて

現状・課題

文厚エリアには、中学校の他、藤島地区地域活動センター(武道館併設)、藤島老人福祉センター(社会福祉協議会建物所有)などがあり、いずれも老朽化しており、エリア全体の再構築が課題となっている。各施設とも老朽化しているが、老朽度に応じた対応や補助金返還などの個別課題があり更なる検討が必要とされています。

また、エリア近辺には、くりくり保育園、藤島児童館などの経年劣化している施設や狭隘な図書館分館もあり、エリア計画と並行し検討していく予定です。

各施設の老朽度に応じた例えば10年ごとのイメージを準備していくことになると想定していますが、差し当たって藤島中学校の改築が最初の事業となると思われます。藤島中学校の改築はまだスケジュールが示されておきませんが、中学校改築は地域の子育て環境整備にかかわる重要な事業でありますし、その配置はエリアの大部分を占めることとなりますので、エリア利活用の重要な部分となっております。これまでの本市の学校改築では2校同時に整備することはおおむね無いようですので、現在改築工事を行っている朝陽第五小学校は完成見込みを令和7年度に予定しているようですので、文厚エリアの大まかな施設配置などを検討する期間も朝五小改築と合わせたものと見込んでおります。

今後のプラン作成スケジュールとして藤島庁舎ワーキング、住民ワークショップなどを複層的に重ねて、調整の結果、エリアのグランドデザインを作成していきたいと考えています。

まず作業としては個別の施設の課題、エリア全体の課題に加えて、藤島地域全体の課題、展望などの抽出をすることから始まりますが、課題抽出には職員のみならず、あらゆる機会をもってご意見を伺いたいと考えております。

つきましては委員の皆様から課題、展望などのご意見を賜りたいと存じます。

議題 ②

タイトル 長沼温泉ぼっぼの湯の利用拡大について

現状・課題

4月から施設の位置づけを、観光施設から健康増進施設に変更し、地元組織主体の「長沼温泉ぼっぼの湯運営協議会」が運営を行っています。フレイル予防事業をはじめとした健康増進事業を展開するとともに、直売施設や食堂と連携した事業、さらに長沼地区自治振興会からも事業を企画していただき、地域の活性化に寄与しています。フレイル予防事業では健康講演会や落語会、いきいき百歳体操温泉パック等、まずは高齢者を対象にした事業を進めてまいりました。

これらに加えまして、子育て世代、若い世代の入浴者数を伸ばしていくことも重要と考えています。すでに行っている「お風呂託児」にあわせて育児相談日を設けるなど、もっと利用しやすい方法への改善や、ファミリー向けのイベント開催、ロビーに絵本や漫画本の設置等を検討しているところです。

ファミリー、若い世代の方に利用していただく具体的な方策についてご助言をいただければ幸いです。

◎入浴実績（11/30 現在）

11月までの入浴者数 88,356人
 (コロナ前R1年4～11月 117,858人の75.0%)

参考

入浴者実績	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
R1実績	16,681	16,155	14,143	13,780	16,941	13,063	13,807	13,288	16,853	16,589	14,082	15,162	180,544
R3実績	10,957	11,169	10,103	10,138	11,568	10,774	12,191	11,456					88,356
R1比較	65.7%	69.1%	71.4%	73.6%	68.3%	82.5%	88.3%	86.2%					48.9%

↑ コロナ第5波

タイトル 藤島地域 子ども遊具広場の設定について

現状・課題

藤島地域内の公園には相当数の遊具が設置されておりますが、近年老朽化や経年劣化により、修繕や再整備の要望が多く寄せられています。また、他地域から来訪した子ども達が遊べる場所がないという声もあります。

藤島庁舎としては、既存の遊具を修繕し長寿命化を図っていく一方で、撤去せざるを得ない遊具については同じ公園内に再整備を行わず、一カ所に集約し地域の子どもの遊具広場として整備していきたいと考えております。

今後、この方針に基づき、藤島地域の公園内遊具整備に関する長寿命化計画を策定していきたいと思っておりますが、どの場所に集約し、子ども遊具広場として設定していくべきか、御意見を賜りたいと存じます。